

ひがし大雪自然館の開館

須田 修¹⁾

Opening of Higashitaisetsu Nature Center

Osamu SUDA¹⁾

はじめに

大雪山国立公園東大雪地域はニペソツ山や石狩連峰などの山岳地帯、然別湖や糠平湖、音更川などの水域、カルデラ盆地である十勝三股地域など多様な自然環境を有し、そこには氷河期の遺存種であるナキウサギやダイセツタカネヒカゲなどの高山蝶をはじめとした希少種を含む多様な生き物が生息している。さらに、温泉資源や旧国鉄士幌線コンクリートアーチ橋梁群などの観光資源にも恵まれた地域である。

平成25年5月1日、東大雪地域の十勝側の玄関口である上士幌町ぬかびら源泉郷に、ぬかびら源泉郷ビジターセンター（環境省施設）とひがし大雪博物資料館（上士幌町施設）の合築により「ひがし大雪自然館」が開館した。このような、国と町がそれぞれ施設を整備し合築するという手法は全国でも初めての試みである。

施設整備の背景

もともと、ぬかびら源泉郷地区には、昭和45年に開道100年を記念して建設された自然史博物館である上士幌町立のひがし大雪博物館があり、大雪山国立公園を中心とした地域の調査研究や資料収集を行うとともに、展示や観察会等の教育普及事業を通じ地域の豊かな自然の紹介や保全に取り組んできた。しかし、コンクリートの劣化など老朽化が激しく良好な施設の維持管理が難しくなっていたことに加え、展示も最後の展示更新から25年以上が経過し、全体的に展示情報が古くなってきていたことから、新たな手法による展示更新が望まれていた。

一方、環境省は、大雪山国立公園東大雪地域の適切

な自然の保護や活用を図る目的で、その中核を担う施設（ビジターセンター）をぬかびら源泉郷地区に整備する計画を進めていた。

このような環境省と上士幌町との意向と時期が一致したことで、両者の協働による施設整備が実現した。

施設整備の経過

平成22年度に環境省により「大雪山国立公園東大雪地域整備基本計画」が策定され、その中で、ぬかびら源泉郷地区に環境省ビジターセンターとそれと連携する上士幌町施設を隣接して整備し、役割分担をしながら一体的な利用を図ることが盛り込まれた。

その後、環境省と上士幌町が協議を重ね、一体的な利用を図るためには、これまでに例のない合築という手法をとることが必要である旨の方針が確認された。

その方針に基づき、平成23年度には、それぞれの施設の基本設計及び実施設計が行われ、平成24年7月から建設工事を開始し、平成25年3月に完成した。

基本設計及び実施設計の段階から、施設設備や展示の内容等について役割分担と連携が確保されるよう、環境省と上士幌町が綿密に打ち合わせを行いながら進められた。その結果、国と町という異なる主体がそれぞれの予算と発注により個別に施設を整備したにもかかわらず、合築という形を実現したばかりか、機能面においても一つの建築物として成り立つことができた。

施設の概要

1. 目 的

ひがし大雪自然館は、大雪山国立公園の東大雪地域を中心とした自然や歴史、リアルタイムな地域の情報

1) ひがし大雪自然館 〒080-1403 北海道河東郡上士幌町字ぬかびら源泉郷48-2 Higashitaisetsu Nature Center, 48-2, Nukabira-gensenkyo, Kamishihoro-cho, Hokkaido, 080-1403, Japan

を発信し、サテライトフィールドである十勝三股における環境教育を実施する活動拠点とする。

2. 構造・規模（図1，図2）

木造平屋建てで、大雪山国立公園の自然景観に溶け込むように切り妻屋根とし、色彩もアースカラーを基本としている。また、館内は柱や屋根の構造を工夫するとともにトップライトを取り込むことで、明るく開放的な空間を実現した。

ぬかびら源泉郷ビジターセンター側に正面玄関、トイレ、物品庫、倉庫、電気室を配置し、ひがし大雪博



図1. ひがし大雪自然館全景
Fig.1. Panoramic view of Higashitaisetsu Nature Center

物資料館側に案内カウンター、事務室、ボランティア会議室、研究室、収蔵室を配置した。展示室は、両施設に配置された。

延べ床面積を以下に示す。

ひがし大雪自然館 延床面積970.10㎡

（内訳）

・ぬかびら源泉郷ビジターセンター

延床面積469.38㎡

・ひがし大雪博物資料館

延床面積500.72㎡

3. 施設利用について

(1) 開館時間 9:00～17:00（7・8月は6:00～）

(2) 入館料 無料

(3) 休館日 水曜日（水曜日祝日の場合はその翌日）、12月30日～1月5日

4. 展 示

正面玄関から入るとまず、ぬかびら源泉郷ビジターセンターの展示室があり、そこでは大雪山国立公園東大雪地域の自然や歴史全般についてグラフィックパネルやジオラマなどを使って紹介している。奥に進むと、ひがし大雪博物資料館の展示となり、主に昆虫を素材

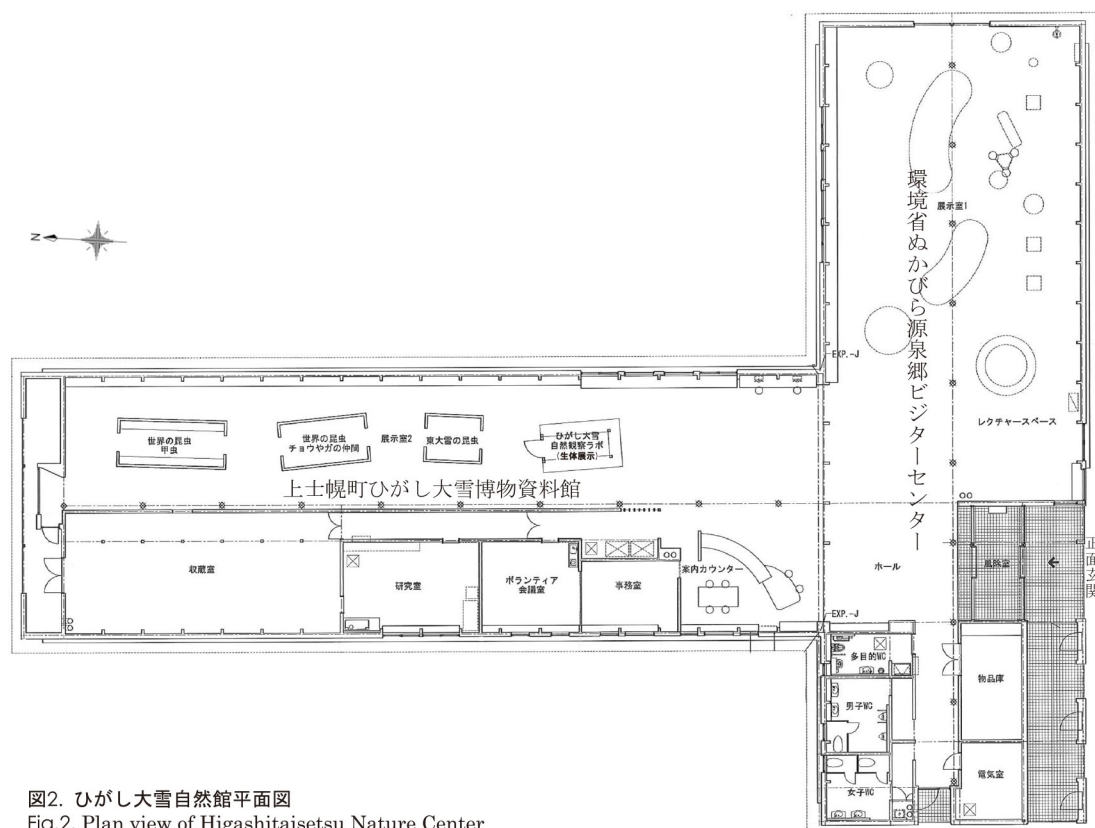


図2. ひがし大雪自然館平面図
Fig.2. Plan view of Higashitaisetsu Nature Center

として生物の多様性や生態系の保全をテーマに展示を展開している。

展示には多くの実物標本が使われているが、そのほとんどは旧ひがし大雪博物館で展示されていたもので、一部ポーズ変更やクリーニングを実施したうえで、あらためて活用したものである。

(1) むかびら源泉郷ビジターセンター (図3)

① 東大雪の自然

大雪山国立公園東大雪地域の山々や地形、動植物をグラフィックパネルや模型、映像を使って紹介している。

② 絶滅した動物と外来種

北海道ではすでに絶滅したエゾオオカミなどの動物や、ウチダザリガニなどの外来種の問題について解説している。

③ 東大雪の多様性に富んだ生態系

ヒグマやエゾシカなどの哺乳類、シマフクロウやキンメフクロウなど鳥類の剥製を展示し、鳴き声も聴くことができる。また、高山や森林の自然をジオラマで再現し、東大雪地域の特徴的な生態系について解説している。

④ 人類の痕跡とアイヌ文化

約2万年前にさかのぼる旧石器時代の遺物やその素材となった黒曜石、アイヌの人々の暮らしなどについて紹介している。

(2) ひがし大雪博物資料館 (図4)

① 東大雪の生き物

東大雪地域に生息する淡水魚や両生類、水生昆虫などを生きたまま展示している。

② 東大雪と世界の昆虫

3つの小屋の中に、生物の多様性をテーマに約5,000点の昆虫標本を展示し、グラフィックパネルやクイズを使って解説している。

③ 昆虫の基礎知識

昆虫の体のつくりや、進化の道すじなどを学ぶことができる。また、昆虫の目や耳を拡大して見たり、紫外線によるモンシロチョウのオスとメスの見え方の違いを体験できる。

④ 体験学習コーナー

生き物や上士幌町についてのクイズに挑戦したり、パズルで遊びながら昆虫の体のつくりや変態などについて学ぶことができる。

5. 環境への配慮

むかびら源泉郷ビジターセンターの南向きの屋根にはソーラーパネルが設置され、クリーンな太陽光エネルギーを利用した発電を行い、施設内の照明や動力に活用している。また、LED照明の使用などにより消費電力を抑制している。

暖房システムは電熱ヒーターを建物下の地中に埋設し、夜間電力で地中に自然の蓄熱層を形成する土壤蓄熱式暖房を採用している。また、地中に設置したアースチューブを通して外気を取り込むことで、空調負荷の低減を図っている。

6. インフォメーション機能

ひがし大雪自然館の大きな役割の一つが、来館者に対するきめ細やかなインフォメーションであり、リアルタイムな散策や登山に関する情報、施設周辺の自然情報などを提供するとともに、案内カウンター周辺で



図3. むかびら源泉郷ビジターセンターの展示
Fig.3. Exhibition of Nukabira-gensenkyo Visitor Center



図4. ひがし大雪博物資料館の展示
Fig.4. Exhibition of Higashitaisetsu Museum

は、温泉や宿泊施設等の各種観光に関する案内、地域特産品やオリジナルグッズの販売を行うなど、来館者が求める情報の蓄積と発信を積極的に行っている。

7. 博物館機能

旧ひがし大雪博物館において実施していた事業を再構築し、ひがし大雪自然館を拠点としながら東大雪地域を舞台に、教育普及事業を実施している。

自然観察会や外来種問題などをテーマにした自然館講座の開催、夏休み期間中は「むしむしWEEK」と題して子供や親子を対象とした昆虫採集と標本作り、ライトトラップ体験を行っている。また、町内小学生を対象とした自然探検クラブの実施や、冬期間限定で収蔵室等施設の裏側を見学できるバックヤード見学会なども実施している。

サテライトフィールドである十勝三股地区では、植樹体験などの自然体験プログラムを実施している。

また、旧ひがし大雪博物館と同様に学芸員等の専門スタッフが配置され、東大雪地域の自然に関する調査研究や資料収集を引き続き行っている。

8. 施設の管理運営について

施設全体の維持管理は上士幌町が行っており、ぬか

びら源泉郷ビジターセンターについては、協定書に基づき環境省から上士幌町へ維持管理を委託する形で行われている。

また、運営については、関係行政機関、商工会、教育委員会、観光協会、温泉旅館組合、地元のNPO法人2団体から構成されるひがし大雪自然館運営協議会を中心に進められている。

おわりに

ひがし大雪自然館は、開館して11か月となる平成26年3月には入館者数が7万人を超えた。今後も大雪山国立公園東大雪地域の拠点施設として、ぬかびら源泉郷を訪れる人達が気軽に立ち寄ることができ、来館者の要求に合わせ自然に親しみ学ぶことのできる施設、登山や観光など地域の様々な情報を得ることのできるワンストップ窓口として、さらに魅力ある施設づくりを目指していきたい。

謝 辞

英文の校閲をしていただいた酒井正道氏に厚く御礼申し上げます。

Summary

Higashitaisetsu Nature Center was opened in Nukabira-gensenkyo, Kamishihoro-cho, Hokkaido on May 1st, 2013. This institution was constructed in conjunction Nukabira-gensenkyo Visitor Center built by Ministry of the Environment and Higashitaisetsu Museum constructed by Kamishihoro-cho. This method is the first attempt in Japan.